

2016年10月31日

第4号

全労連

全労連
憲法・平和グループ

憲法 平和闘争ニュース

「青森から自衛隊を戦場に送るな！」 日本平和大会in三沢 1500人が参加



10月22日23日の両日、青森県三沢市で「なくそう！日米軍事同盟・米軍基地2016年日本平和大会in三沢」(主催=同実行委員会)を開催し、延べ1500人が参加しました。

開会集会では、元自衛隊員の末延隆成氏が戦争法にもとづく新任務「駆け付け警護」に反対し、「南スーダンは、軍隊なのか民間人なのかも区別がつかない。必ず殺すことになる。最初の自衛隊員を、青森から出してはいけない」と訴えました。

主催者あいさつでは全労連の長尾ゆり副議長が「衝突であって戦闘ではない」「南スーダンは永田町よりは危険だ」など無責任な答弁に、怒りでするえます。命ほど重いものはありません。南スーダンから今すぐ自衛隊の撤退を、新たな派遣はするな、駆け付け警護などの任務を付与するな、そして戦争法は廃止という声を、この青森からさらに大きく広げましょう。」と訴えました。

大会報告を日本平和委員会の千坂純事務局長が行い南スーダンへの自衛隊派遣をやめさせ、戦争法廃止、憲法守れの全国の運動をこの大会で交流し、たたかい

をさらに発展させようと呼びかけ、米軍新基地建設に反対する沖縄県民のたたかいが重要だと強調しました。

その後東北3県と、京都、埼玉、東京、沖縄などから参加した人たちによる「基地はいらない」のリレートークがあり、海外代表のウォルデン・ベロ氏(フィリピン)があいさつ。「オール沖縄」で当選した伊波洋一参院議員、日本共産党の高橋千鶴子衆院議員、参院選青森選挙区で市民と野党の統一候補として勝利した、民進党の田名部匡代(まさよ)参院議員があいさつしました。

23日の閉会集会では自衛隊員を家族にもつ富山正樹さんが「何かしなければ絶対に後悔する。南スーダンへ、青森から若者を行かしてはいけない」と訴えました。安保破棄中央実行委員会の東森英男事務局長は、大会を通じて戦争法の具体化や憲法改悪の動きの根源にある日米軍事同盟をなくす重要性が深められたと強調。「激動の情勢のもと、学んだことを広げ、地域から劇的に幅広い共同の発展を勝ち取ろう」と呼びかけました。

閉会集会後のパレードでは若者を先頭に「命を守れ」「オスプレイはいらない」と三沢基地周辺に平和へのねがいを訴えました。

被爆者の声を聞け！官邸前緊急行動

日本原水協は10月28日、国連総会第1委員会では日本政府が核兵器禁止決議(「核兵器廃絶の多国間交渉の前進」)に反対票を投じたことに対する怒りの緊急行動を首相官邸前で行いました。急な呼掛けにもかかわらず、全日本教職員組合や新日本婦人の会、東京原水協から11人が参加しました。

寒く冷たい雨が降りしきる中、靴の中が水浸しになりながらも日本政府は反対を撤回せよ、被爆者の声を聞き、核兵器廃止にむけて努力せよと声をあげました。

行動に先立ち安井正和事務局長は談話をだし、123か国が賛成して決議が採択されたことを歓迎するとともに、「核兵器の禁止・廃絶がもはや後戻りできない大きな流れとなっていることを示している」と指摘。反対票を投じた日本政府には『核兵器のない世界』実現の先頭に立つべき被爆国の政府としてあるまじき行為」と厳しく批判し、こうした態度を即刻改め、12月の国連総会本会議で賛成に転じるよう強く要求しています。そして、「ヒバクシャ国際署名」推進や被爆の実相の普及などを通して、核兵器禁止に向けた世論を広め、「核兵器のない世界」実現の先頭に立つ日本をつくる決意を改めて表明しています。(2016年10月29日発行 日本原水協活動交流ニュースより)

